



ふくおか【Good👍】農業人100

主な農産物／白輪キク、スプレーキク他

富士本 稔さん (36歳) (営農地／田川市夏吉)

感謝の気持ちを持つこと

《就農のきっかけ》

農業の面白さを体験した 農家研修がきっかけ

県農業大学校の作物コースで学びながら、帰省した週末に県農業大学校の先輩の花弁ハウスの手伝いをしていた富士本さん。将来の目標は漠然としていた富士本さんが就農したいと心が決まったのは、県農業大学校の二年生時に行われる農家留学研修がきっかけ。研修先の北九州市小倉南区の野菜農家での研修は朝5時から夜9時までの毎日でしたが、「頑張れば頑張ったほど返ってくる」ことが解り、農業の面白さを体験したそうです。また、研修先で多くの農業青年との出会いや交流を通じて「農業はいいな。」と確信しました。

《これまでの過程》

自分のほ場に合わせた栽培技術の確立

県農業大学校卒業後は、施設の花づくりを5年間経験した富士本さん。栽培技術の習得に手ごたえを感じたことから、資金を借りて自分のハウスを建設し、キクとトルコギキョウの栽培を開始しました。しかし、4～5年は経営を軌道にのせることが出来ませんでした。

その後、全自動重量選別結束機の導入と併せてキク栽培に経営を一本化し、雇用型経営に転換してからは、今までの様な、同業者の技術をまねすることをやめ、原点に戻り「自分のほ場に合わせた栽培技術」を見出しました。気候の違いや土の違いを見極め、自然本来が持つ力を引き出す工夫を行うようになりました。

今では第2ハウスを建設し、キクの専作農家として75aの施設を持つまでに成長しました。



プロフィール

- 家族構成／本人、妻、子ども3人
- 営農年数／約16年
- 従業員数／常時雇用2名、パート雇用6名
- 耕作(経営)面積／75a(のべ160a)
- 販路／市場、小売

《これからの展望》

ニーズに合わせた販売と栽培方法の実践

自分のほ場で良いものを栽培することが重要。しかし、消費者のニーズに合わせた販売と栽培方法を実践することでもっと収益を上げることができるのではないかと思います。そのためにも、花屋さんなど、花を使う側のニーズの把握に努めたいと思っています。

高齢化に伴い空きハウスがあちこちに出るのではないかと心配しています。自分でハウスを建設し規模拡大をすることも考えられますが、今後は、空きハウスを借りて栽培を継続したいと思えます。「花だけにこだわらず、消費者のニーズに合わせた品目導入による経営も考えたい。規模拡大のチャンスがあれば、どこへでも出かけたい。」と意欲的に夢を語ってくれました。



Good👍 成功のためのポイント

自分の仕事を好きになる。
最後まで諦めず、マイナス思考をなくすこと。
収益だけを追うのが経営者ではない。
働いてくれる人があっての農業経営。
大事なことは「ことば」と「態度」。
従業員にも作物にも感謝の気持ちと声掛けを行う。